

第1回学術大会のご報告

主催：一般社団法人 日本歯科矯正専門医学会
後援：日本歯科医師会

歯科矯正医の集い ～融和と結集にむけて～

早いものでJSOの設立から2年が経過いたしました
今年、名称を“日本歯科矯正専門医学会”と改称し
去る6月24日にアルカディア市ヶ谷私学会館において
第一回記念学術大会を開催することができました

“JSOは開かれた会”です

今回初めて他団体の専門医の先生方も
ゲストとしてご出席いただきました

今後は、ひとりでも多くの専門医が集い
歯科矯正の明るい未来のために

1. 認定専門医が一致団結できる場になる
2. 認定専門医としての技術の維持はもちろん、さらなる義務と責任を自覚する
3. 認定専門医による学術団体としての義務と責任を果たし、社会に信頼される存在になる

以上のことを目指して活動していきます
今後JSOは、ますます責任が大きくなりますが
私たちはJSOを通じて、歯科矯正が社会で信頼される医療となることを
目指して努力していく所存です
そのためには、皆様のご理解とご協力によって
矯正専門医が一丸となって活躍できる場となるように発展していくことが必要となります
皆様のご理解とご協力を宜しくお願いいたします

講演報告

《会長挨拶》日本歯科矯正専門医学会（JSO）会長 三瀬駿二先生

2012年6月25日アルカディア市ヶ谷私学会館「霧島」において、日本歯科矯正専門医学会(JSO)主催の第一回記念学術大会が開催されました。今回の大会にはJSO会員のみならず、日本矯正歯科学会や日本成人矯正歯科学会の方々にもご参加いただきました。冒頭大勢の参加者の前で、三瀬駿二会長から、参加者への謝辞とともに、「JSOは矯正専門医にとって開かれた会」であることに加え、当会が「矯正専門医が一丸となって活躍できる場となるように発展していくこと」こそが、「私たち矯正医が社会で信頼される」必要条件であることが挨拶として述べられました。

講演1. 「日本歯科矯正専門医学会（JSO）の活動」澤端喜明先生（富山県富山市開業）

引き続き、演題1『JSOの活動』として、澤端喜明先生にJSOの活動に関してご報告頂きました。まずはJSOの設立背景に関して、世の中の経済状況が低迷する中、安易な矯正治療が横行し矯正治療の質が全体的に低下していることを指摘、矯正治療は歯科医療の中でも特殊な知識や技術を必要とする医療であるものの、医科における専門医のような認知はされていないことから、まずは矯正医の証として自らを律して専門医の資格認定を行い、その上で有志によって矯正専門医としての集団、日本歯科矯正専門医学会（JSO）を創設するに至った経緯が紹介されました。その上で、JSOが矯正専門医の団体として社会的な責任と使命を果たすための四つの活動についての説明が行なわれました。

1 〈矯正臨床に関する学術的な探求〉

臨床経験豊富な矯正専門医だからこそ矯正治療の方法や考え方に対する検証ができることを指摘、現在棚上げにされている矯正臨床上の諸問題に対する調査、報告をおこなうことが社会に対する義務であるので今後も研究報告を継続していくことが述べられました。

2 〈患者さんにわかりやすいガイドラインの作成〉

復元ではなく、創造をもって治療とする歯科矯正の分野において、ガイドラインの作成は困難とわれて来ましたが、Minds吉田雅博先生から、専門委員会や専門家個人の意見を集約することによって実現の可能性があるとのことご指摘を受け、現在二回の臨床上のアンケートを実施し、ガイドライン作成委員会の招集を計画していることが報告されました。

3 〈一般市民向けの公開講座の開催〉

一昨年より全国の各都市において、一般市民向けの公開講座が開催されており、その報告と一部講演内容に関しての解説がありました。どこの会場も立ち見ができるほどの盛況であり、多くの市民が矯正治療に関する正しい情報を欲していることを再認識いたしました。

4 〈ホームページやメディアを通じた正しい矯正治療に関する情報発信〉

JSOは専門医の学術団体であることが全面に打ち出されたホームページ上において、多くの完治症例写真に加え、再治療例（転医症例）も紹介し、正しい歯科矯正の啓蒙に務めていること、また前述のガイドラインの作成のためのアンケート調査結果も掲載していることが紹介されました。詳細は『JSO』で検索したうえで、ホームページをご覧くださいと思います。



講演2. 「抜歯、非抜歯の背景」三瀬駿二先生（愛媛県松山市開業）

引き続き学術講演が二題、まずは矯正治療上、最も重要な決断と言える抜歯・非抜歯の判断について、『抜歯・非抜歯の背景』と題して三瀬駿二先生からご講演頂きました。認定矯正専門医に対するアンケート調査によると、矯正治療のために抜歯を行なった比率は3%から96%(週刊朝日MOOK2011年発行)と幅広い結果を得ています。その判断は診療所のある地域、年齢層、

治療の形態、治療法などの影響に加えて、矯正治療の意義や意味などの考え方よっての影響があるとしても、あまりにも大きな幅であることに専門医は疑問を持つべき、と話されました。何故我が国の抜歯率においてこれほどの幅が生じたのか、発表では、まずは歴史的な抜歯・非抜歯率の変遷を文献から紹介し、矯正治療における抜歯率は時代によって変化することを提示した上で、ここ10年程の非抜歯治療の流行がその幅の要因であるとの推論が示されました。次にその拡大治療に関して、「歯槽基底論」と「生体における犬歯間幅径の経年的な変化と拡大、縮小治療に対する変化」「Key toothとしての上顎第一大臼歯」に関する興味深い文献考察がなされました。加えて、「オトガイ部と歯槽基底との関係」について、自身の治験例から下顎前歯部の歯槽基底は舌側には移動するが、唇側には移動しないことを示し、その変化の特徴は、人間が進化の過程で獲得したオトガイ形成の方向性と一致すると述べ、古来より美人と言われて来た人々の図版ならびに写真が提示されました。そこから、美しさの基準には変遷するものがあるものの、いつの時代にも美しいとされる人の口元にひずみがないことを示し、基本的な美は進化の方向性と一致するとして、「矯正治療と顔」という観点から、前歯部と口唇の関係を考慮した場合、短頭・長顔の日本人における抜歯治療の有効性を指摘しました。その後供覧された抜歯治療による美しい口もとの症例は、矯正治療の指針とすべき美の概念を表すに十分なものでした。



講演3. 「矯正治療における生体の恒常性と適応能」与五沢文夫先生（東京都港区開業）

講演の最後は与五沢文夫先生による『矯正治療における生体の恒常性と適応能』でした。澤端先生の講演でも触れられましたが、専門医の集団は、臨床の質の維持ならびに向上を目指すのは当然のこととして、同時に専門医はその分野における先導役として、社会的責任と義務を担うことを指摘されました。

特に、現今の混乱している矯正治療の方法や考え方の整理をまずおこなうべきであるとの提言がありました。具体的には、抜歯・非抜歯の問題、早期治療の限界や可否、歯列弓拡大、各種矯正治療法などの諸問題を挙げた上で、各種の相容れない考え方や治療法が拡散していく傾向にあることから、矯正専門医集団は、これらの問題の整理整頓を行ない、矯正治療をより信頼ある医療とする責任があるとの発言は、私たち専門医一人一人の胸に深く届く言葉となりました。

さらに、これらの問題に対応するためには、蓄積された治療経験の実際を直視して顧み、そこから生物学的な真実を読み解くことによって、より整理された矯正臨床上の指針を得ることができるのではないかとこの立場から、三症例を供覧されました。はじめの二症例は片側の鉤状咬合者と両側の鉤状咬合者。前者は生体に備わった下顎位置の恒常性を治療計画に取り込んだ症例であり、後者は矯正治療により臼歯部での咬合機能を付与することで、生体のもつ適応能が引き出された症例であり、長年にわたる詳細な症例の分析から矯正治療と生体のもつ恒常性や適応などのシステムとの関係が示されました。三症例目は四力所での矯正治療経験を持ち、治療中の状態の評価を求めての来院でしたが、インプラントを固定源として、生体の適応能を超えて前歯部を舌側に移動させた結果、歯根尖端が歯槽骨から逸脱していました。このような事実と併せて、物理的的刺激が身体に反応を起こさせる引き金になるものの、反応する主役は生物学的な応答であるという結語は、現在の矯正治療が含む危険性に対する警鐘とも受け取れました。

今回、初めての専門医の学会ということで与五沢先生から、「個々の矯正専門医は豊富な治療経験、知識、技術を持っている。だからこそ、異なる考えを持つ専門医が幅広く集うことで、矯正臨床を多面的に検討することが可能になり、生体を持つ真実をより引き出すことができるようになる。ひいては矯正治療をより洗練された確実なものにすることができるのではないかと」のご提言をいただきました。これは正に当会の方向性を示したはなむけの言葉であると感じ入りました。一人の専門医として、誇りと責任の意を新たにしました次第です。



症例展示

JSO会員が学会会場にて、症例展示を行いました。一つ一つの治療例。これこそが私たち矯正専門医が臨床を通じて、社会に貢献するという意思の表れでもあり、専門医である証拠と言えます。そして全力で治してきた症例をお互いに謙虚に省みることが、明日への活力の源になるはずです。治療例を展示する事は、ゴールではなく新たなスタートへの第一歩です。また矯正専門医は、呈示された症例を見ればその人の“人となり”までわかります。皆それぞれ世代も地域も異なりますが、症例展示を通してより深くお互いを良く理解し合えたのではないかと感じました。



懇親会

学会終了後にアルカディア市ヶ谷私学会館 阿蘇の間において、懇親会「歯科矯正医の集い」が開催されました。日本矯正歯科学会、日本成人矯正学会、日本歯科矯正器材協議会の会員の皆様をはじめ、多くのご来賓の方々をお迎えし、歯科矯正に携わるもの同士として、笑顔でお話をする事ができました。お一人お一人の立場や環境は様々ですが、良い矯正臨床の未来のために皆様それぞれに真剣に考えていらっしゃる事がよくわかり、お互いの距離がとても近くなった様に感じられました。今後ともJSOは「開かれた会」として、ご協力いただける方々とともに、矯正専門医が一丸となって活躍できるように鋭意努力する所存です。



日本歯科矯正器材協議会の小川清史会長ご挨拶



懇親会の様子

協賛企業の皆様

歯科矯正が社会で信頼される医療となるためには、日本歯科矯正器材協議会の皆様をはじめ、多くの関連企業の皆様のご協力が欠かせません。今後ともよろしくお願い致します。加えてこの度は、当学会にもご協賛いただき誠にありがとうございました。

ご協力いただきました企業の皆様

株式会社 ミツバオーソサプライ	デンツプライ三金 株式会社
有限会社 オーソデントラム	有限会社 ティーピーオーソドンテックスジャパン
株式会社 ジーシーオルソリー	株式会社 オーティカ・インターナショナル
株式会社 オーラルケア	株式会社 トクヤマデンタル



業者展示の様子



一般社団法人

日本歯科矯正専門医学会

ホームページ <http://www.jso.or.jp/>

お問い合わせ：JSO事務局（担当稲見）電子メール contact@jso.or.jp

〒321-4305 栃木県真岡市荒町2094-13